

University of the Arts における舞踊教育の特徴

－クラシックバレエの位置付けから見た報告－

The characteristic of the curriculum of the dance department in University of the Arts

－A report about the significance of classic ballet in education of dance－

小 山 佳予子

Kayoko KOYAMA

Abstract

Most contemporary dance theory is based upon the principles of classical ballet. A knowledge of the system of dance education in the US, as a prime example of practices around the world, provides an understanding of the significance of classical ballet in dance education.

I was provided with the opportunity of studying at the University of Arts for one year. Based on my experiences, I produced a report regarding the characteristics of dance training in the US from the perspective of classical ballet.

Freshman and sophomore training focuses on the basics. Junior and Senior students choose their specialty and receive training in that field. However, classical ballet tuition is required throughout the four year course. The curriculum is based upon a sound understanding of the nature of dance and classical ballet is obviously considered the basis of all other modes of dance.

keywords : classic ballet, curriculum, University of the Arts, education

< はじめに >

クラシックバレエは16世紀イタリアルネッサンス時代の宮廷舞踊から発祥し、バレエ学校はフランスの国王ルイ14世（太陽王）が1661年に王立舞踊学校（現在のバリオペラ座学校）を創立したのが始まりである。同時期にシャルル・ルイ・ボーシャンによってバレエ教則本が出来上がり、脚の5つのポジションが確立された。また、1760年にはノベールにより「舞踊とバレエについての手紙」という舞踊百科辞典的な性格を持つ本が出版された。それまでバレエの中心部はフランスであったが、その後バレエはロシアへ移行しチャイコフスキーの3大バレエである「白鳥の湖」「眠りの森の美女」「くるみ割り人形」が誕生し、ロシアの興行師ディアギレフの手によってフランスで再び栄えた。その火ダネがとびちり、ヨーロッパ中にクラシックバレエは開花した。その同時期にアメリカでは、イサドラダンカンによってモダンダンスが確立され、それ以後ありとあらゆる技法を持ったダンスが出現したり、

例えばマーサ・グラハムは、モダンダンサーでありフォーサイスはコンテンポラリーの振り付け者であるが、クラシックバレエの基礎を体得した上で彼等の芸術を確立している。つまり現在の舞踊の多くはクラシックバレエをその基本として成り立っているといっても過言ではない。このような事実に基づいて他国の高等教育機関での舞踊をみると、クラシックバレエがどのように位置づけられているのかを知る方法としては、アメリカの舞踊教育がその手がかりとなることを松本千代栄氏が示唆している⁸⁾。そこで本研究者はUniversity of the Artsにおいて1年間研修する機会を得たことから、アメリカの大学のダンスコースにおける舞踊教育の特徴をクラシックバレエの位置づけから報告することとする。

< 研究の方法 >

著者の海外在外研修地である Philadelphia において招聘大学である University of the Arts (以降 U arts と表記する) を調査地とし、2000年9月1日から2001

年3月25日まで (Fall semester ~Spring semester の途中) の期間で、観察、インタビューを通して、報告することとした。また、大学の概要やカリキュラム等に関する資料は、U arts 発行のパンフレット等から一部抜粋した¹¹⁾。

1. U arts の教育理念

1) U arts の概要

U arts は、ダンスに関する完全なるプロフェッショナルになるための教育を目的とした大学である。1987年に「Philadelphia College of Art and Design」と「Philadelphia College of Performing Arts」「College of Media and Communication」の3つの単科大学が統合し the University of the Arts として総合大学となった。1996年には一般教養、メディア、コミュニケーションの科目が充実し、現在では150種類以上の職業が身につけられるよう準備されている。大学は Philadelphia の中心部に位置している。約2時間で世界の芸術の発信地といわれるニューヨークに行かれる為、いちはやく情報を入手することが可能である。

大学の特筆すべき施設に、9つのスタジオと3つの劇場が挙げられる。大通りに面したビルの1階から4階に、バー、鏡、巨大な窓、ピアノ、オーディオセットが各完備させている大スタジオが4つ、中スタジオが5つある。各階にはロッカー、シャワールーム、ドレッシングルームが完備しており、さらに各スタジオに隣接されているラウンジは学生の憩いの場所となっている。地域の芸術劇場としても利用されているメリリアンシアターは、歴史的な劇場であり学生達の発表の場として使用されている。他には学生の小公演が行える200席のダンスシアターを2つ保有している。U arts は、ダンスコースで学ぶ学生達にとって、プロの演技者、あるいは舞踊教育者や振付者としての身体、知性、創作の形成に徹底して専念させることができる環境にあるといえる。

取得学位は BFA, BFA (danceED), Certificate in Dance の3種類がある。BFA は芸術学士の称号であり、ダンスの演技あるいは振りつけの職につけるようにプログラムされているカリキュラムから、4年間で128単位の取得が必要となっている。BFA (danceED) は、ダンス教師としての専門職に就くために重要な学位であり、特別に用意されているがペンシルバニア州では、教師のライセンスなしでも小学校、中学校、高校、ダンス教室の教師になることが可能である。Certificate in Dance は2年間55単位を卒業単位とし、これらの学生の為に実技中心の授業が用意されているが学士の称号は得ることができない。

2) 教員と学生

アメリカのバレエ教育は18世紀から19世紀にかけてイタリアやデンマークからアメリカに移住したバレエ教師によって西海岸で開始された。1917年ロシア革命後アメリカに流入した亡命ロシア人舞踊家によってロシア技法が浸透しはじめると、1920年代にはルースページがシカゴに、キャサリンリトルフィールドはフィラデルフィアにバレエ学校を設立し、アメリカ人による初めて本格的なバレエ団・バレエ学校設立となりヨーロッパに劣らぬ教育が開始された⁹⁾。のちにロシアより亡命したバランシンを迎えて創設された School of American Ballet でさらに高まっていった。フィラデルフィアは東海岸では始めてバレエ学校が設立されたことから、多くのバレエの教師陣が居住している。歴史で示されたようにこのあたりのバレエの主流はやはりワガノワメソッドであり、大学でもワガノワメソッド中心の授業展開となっている。又、歴史が辿るがごとくブルノンビル派 (デンマーク) バランシン派 (ロシアからアメリカ) アントニーチュダー派 (イギリスからアメリカ) のメソッドを指導する教師陣が揃っている。

ダンスコースの教員数を Course Catalog の School of Dance Faculty を基に表1に示した。バレエ2名

表1 ダンスコースの教員構成

	専門教科	バレエ	モダン	ジャズ	タップ	アフリカン	ブラジリアン
教授 (学外)	2名				(1名)		
準教授 (学外)	1名 (4名)	1名 (2名)	(4名)	1名			
助教授 (学外)	2名	(3名)	3名	(1名)		(1名)	(1名)
非常勤講師	(3名)	(1名)	(1名)	(2名)			
客員教師		1名	1名		1名		
合 計	5名 (7名)	2名 (6名)	4名 (5名)	1名 (3名)	1名 (1名)	(1名)	(1名)

* () 内は、学外者人数

(学外教員6名)、モダンダンス4名(学外教員5名)と教師数は多いことからこれらの実習に重点をおいていることが伺える。また、どのジャンルにおいても学外教員が学内教員よりも多いことが示されている。これは、カリキュラムの柔軟な変更、改善に対応するための方途と推察される。その他に登録している授業伴奏者7名、テクニカル、ディレクター1名、衣装専門1名についてもその専門領域での一流のプロを雇用している。これらのことも専門性の充実を図っていることを示している。又客員教師については、著名人が多く、中でもニューヨークで活躍中の偉大な芸術家と称される人々を大学内で見かけることが多々あった。

学生の多くは他の州から来ている。1年生は寮にはいることも可能であるが、ほとんどは大学付近のアパートに住んでいる。男子の半数以上は、奨学金を得ている。大手のカンパニーが(例えばコカコーラ、本屋、レコード店等)スポンサーとなって学生達の援助に多大なる力を貸している。入学に関しては、高校の成績および席次、SAT(I, II)やACTなどの全国共通試験の成績が選抜の資料となり、ダンスのオーディションによって合格者が決定する。外国人留学生の場合、TOEFL500点を必要とするが、実技重視であるため実際には470点でも合格している。

入学者の人数制限はなく、その時々に応じて変化し、現在、学生在籍人数として1年生70名に対し、2年生60名、3年生60名、4年生40名といった具合に減少していく。これは、外部のオーディションに合格し、プロに移行していくことが理由のひとつとして挙げられる。

3年生より専攻別になった際にモダンダンス専攻、ジャズダンス専攻を専門とする学生数割合はほぼ同数であるのに対して、バレエを専攻とする学生は少数である。この現象はアメリカがモダンダンスの発祥地であり、さらにはミュージカル産業国であることが関係していると思われるが、それ以上にバレエ本来の技術の難しさや職業としての門戸の狭さなど、日本と同様の状況にあると考えられる。

卒業後の進路は、プロダンサー、劇場関係の仕事、ダンススタジオのアシスタントインストラクターなどが挙げられる。学生の多くはプロのダンサーを志望しているため、学内の掲示版にはいつも沢山の情報が溢れている。又人材を求めにディレクターが来校することもあり、大学内でのオーディションもたびたび行なわれている状況である。このように日本よりはダンス

関係の仕事に就ける可能性は高い。しかし、プロとして安定した就職になりえないことは各国共通した難しい現状といえる。

2. カリキュラムの特徴とバレエの位置づけ

1) カリキュラムとバレエの位置づけ

ダンスコースの必修科目を表2～5に示した。

1年生は実技5科目、演習2科目、講義5科目が必修科目となっている(表2)。実技の中心科目はクラシックバレエ、モダンダンス、ジャズダンスである。この他にタップ等が加わる。これらのダンスの学習単位となるクラスは入学時にクラシックバレエの経験の有無と技術によって表6で記されているようにsection 1(初級)、section 2(中級)、section 3(上級)の3クラスに編成され、1・2年次は全ての授業をこのクラスで受講することになる。入学者のダンスの技量をクラシックバレエの技法から判断するその背景には、全ての舞踊基礎基本をクラシックバレエとした発想がうかがえる。1年生は週に4回のクラシックバレエ、3回のモダンダンス、2回のジャズダンスをこのクラスで受講する。等質のクラスで学習するため、学

表2 U arts ダンスコースにおける必修科目を「Course Catalog」より抜粋

Freshman Year		Semester Credits	
		1st	2nd
	Rhythm for Dancers	1	-
A/B	Ballet I - II	2	2
A/B	Modern Dance I - II	2	2
A/B	Jazz Dance I - II	1	1
A/B	Tap I - II	1	1
	Eurhythmics	1	-
	Improvisation	-	1
A/B	Fundamentals of Dance I - II	1	1
	Survey of Music	-	3
	Language of Music	1	-
A/B	First Year Writing	3	3
A/B	Intro. To Modernism	3	3
Electives		-	1
		16	18
Sophomore Year			
A/B	Ballet III - IV	2	2
A/B	Modern Dance III - IV	2	2
A/B	Jazz Dance III - IV	1	1
A	Notation I	2	-
	Anatomy for Dancers	1	-
	Kinesiology	-	1
A/B	Dance History I - II	3	3
	Music for Dancers	1	-
	Dance Composition I	-	1
	Dance Ensembles	1	1
	Liberal Arts	3	3
Electives		1	1
		17	15

表3 U arts ダンスコースにおける必修科目を「Course Catalog」より抜粋

Ballet Major		Semester Credits	
Junior Year		1st	2nd
Required	Courses		
A/B	Ballet V-VI	4	4
A/B	Dance Pedagogy I-II	2	2
A/B	Ballet Repertory I-II	1	1
A/B	Partnering I-II	1	1
	Theater Functions	-	1
	Character Dance	-	1
A/B	Modern Dance for Non-Majors V-VI	1	1
	Pointe I-II or	1	1
A/B	men's Class I-II		
A/B	Dance Ensembles	1	1
	Liberal Arts	3	3
Electives		2	1
Junior Year Total		16	17
Senior Year			
Required	Courses		
A/B	Ballet Major VII-VIII	4	4
A/B	Dance Production I-II	2	2
A/B	Modern Dance for Non-Majors VI-VII	1	1
	Dance Ensembles	1	1
	Liberal Arts	6	3
Electives		1	3
Senior Year Total		15	14

表4 U arts ダンスコースにおける必修科目を「Course Catalog」より抜粋

Jazz/Theater Dance Major		Semester Credits	
Junior Year		1st	2nd
Required	Courses		
A/B	Jazz V-VI	4	4
A/B	Dance pedagogy I-II	2	2
A/B	Dance Composition II-III	2	2
	Theater Functions	-	1
A/B	Tap III-IV	1	1
A/B	Ballet for Non-Majors V-VI	1	1
A/B	Voice I-II or	1	1
A/B	Acting I-II		
	Dance Ensembles	1	1
	Liberal Arts	3	3
Electives		2	1
Junior Year Total		17	17
Senior Year			
Required	Courses		
A/B	Jazz VII-VIII	4	4
A/B	Dance Production I-II	2	2
A/B	Ballet for Non-Majors VII-VIII	1	1
	Dance Ensembles	1	1
	Liberal Arts	6	3
Electives		1	2
Senior Year Total		15	13

生の進歩は著しい。クラシックバレエの経験や技法によって等質のクラスを編成することに関しては、誰もが納得いくカリキュラムである。

表5 U arts ダンスコースにおける必修科目を「Course Catalog」より抜粋

Modern Dance Major		Semester Credits	
Junior Year		1st	2nd
Required	Courses		
A/B	Modern Dance V-VI	4	4
A/B	Modern Repertory I-II	1	1
A/B	Dance pedagogy I-II	2	2
A/B	Dance Composition II-III	2	2
	Theater Functions	-	1
A/B	Improvisation II-III	1	1
A/B	Ballet for Non-Majors V-VI	1	1
	Dance Ensembles	1	1
	Liberal Arts	3	3
Electives		1	1
Junior Year Total		16	17
Senior Year			
Required	Courses		
A/B	Modern Dance VII-VIII	4	4
A/B	Dance Production I-II	2	2
A/B	Ballet for Non-Majors VII-VIII	1	1
	Dance Ensembles	1	1
	Liberal Arts	6	3
Electives		2	2
Senior Year Total		16	13

2年生は、実技4科目、演習2科目、講義5科目が必修科目となっている(表2)。週3回のクラシックバレエ、3回のモダンダンス、2回のジャズダンスに加え、2年次からダンスアンサンブルが開講される。このダンスアンサンブルが年2回の大きな公演の作品づくりとなる授業である。この授業に関しては、学生と教師の双方共の希望や意見を手がかりに3、4年生も加わりオーディションによって編成されている。

3年生からはクラシックバレエ、モダンダンス、ジャズダンスの専門性を高めるためのクラス編成となり、カリキュラムも方向性が明確になっている(表3、4、5)。クラシックバレエ専攻生のバレエ以外の実技にはモダンダンスがある。これは、表現力の育成や強化をねらいとしていると思われる。特筆は「バレエレパートリー」という授業である。これはあまり世間では上演されていないが、歴史を辿る上で重要とされる作品をとりあげ伝承することの意義を尊重している内容であった。

モダンダンス専攻生とジャズダンス専攻生にもクラシックバレエは必修科目となっている(表4、5)。これは、バレエの技法が身体のメンテナンスやプレースメントに通じていることが立証されていることに起因していると思われる。

4年生では実技3科目、演習1科目、学科1科目が必修科目となる(表3、4、5)。空いている時間は自

表6 時間割(実技)の一例

STUDIOS-FALL2000

M	Room	Studio 1	Studio 2	Studio 3	Studio 4	Studio 5	Studio 6	Studio 7
8:30	PEDAGOGY	BALLET I, S.2				BALLET I, S.1	BALLET I, S.3	
9:50								
10:00	VOICE	BALLET V, 7	BALLET III, S.1			MODERN V	MODERN III, S.3	JAZZ 1, S.3
11:20								
11:30	VOICE 2	JAZZ I, S.1	BALLET III, S.2		MODERN ENS	JAZZ III, S.1	MODERN VII	
12:50								
1:00	VOICE 3	BALLET III, S.3	STYLES OF JAZZ(FUNK)			JAZZ III, S.2	MODERN REP S.1	
2:20								
2:30	NOTATION 2	JAZZ V, VII	MODERN 1, S.3			MODERN I, S.2	BALLET ENS	
3:50								
4:00			JAZZ ENS				MOD ENS	
5:20								
5:30			JAZZ ENS		TAP ONE	BRAZIL TWO	BALLET ONE	
6:50								
7:00					TAP TWO	BRAZIL ONE	BALLET TWO	
8:20								
8:30						SAMBA MASHINE		
9:50								

* Sは、Sectionを意味する。

分の必要に応じて他専攻、他学年のクラスで気軽に授業を受けている。特にバレエ専攻生以外の学生達は週1回開講されている、「ノンメジャーバレエクラス」だけでは不足感が強く、下学年に開講されているバレエクラスを単位とは関係なしに受講している実態が見受けられる。

U artsでは全てのダンスの基本はクラシックバレエであるという理念がカリキュラムからダイレクトにうかがえ、時間割りにおきクラシックバレエクラスがほぼ朝の時間帯に置かれている(表6)。これは、バレエ技法で朝のうちに基礎的な身体づくりをすることは、ダンサーにとり理想的なスケジュールであり、学生達の身体を思いやる配慮がなされている。と同時に、常に1日の始まりはクラシックバレエで訓練をおこなってから動くようにカリキュラムを通して指導していると見受けられる。又学生のニーズに対応すべく教師側も徹底したクラシックバレエ指導を行っている。1~4年生までを検証すると必修の占める割合が卒業単位の4分の3、そのうちの半分以上が実技の授業となっている。必修科目のしびりを多くすることによって学生達に実力を身につけさせるダンスに関するプロの育成といった観点から構成されているまさにBFAのカリキュラムといえる。

表7 ダンスコースに開かれている選択科目

実技科目	
Mime (1)	The Alexander Technique (1)
Yoga (1)	African Dance (1)
Spanish Dance (1)	Voice III, IV (1)
Mat Class (1)	
専門教育科目	
Nutrition	
Concept of Health and Fitness (2)	
Dance Symposium I, II (3)	
Survey of the Business of Dance (1.5 credit)	
演習科目	
Dance Ethnology (1)	Contact Improvisation (1)
Dance Therapy (1)	Dance Composition (2)

* ()内は、単位数

必修選択科目として、「リベラルアーツ(一般芸術教育、各1科目3単位)」分野は2年生より受講することができる。文学は4科目、芸術関係の歴史は35科目、社会自然科学は50科目、科学/数学は12科目、人文学は39科目、歴史分野は9科目の内より21単位選択する。

選択科目として、4年間で9単位以上受講であり学位を獲得するために必要な卒業単位は123単位から129単位である。コースにひらかれている選択科目(表7)。

その他として、他の専攻の必修である初級（Ⅰ）のクラス又は、他のコースの必修である初級（Ⅰ）のクラスからも、取得することができる。又学生が他の専攻、他コースの中級の（Ⅱ）のクラスを受講したい場合は、教師との交渉で単位を得ることも可能である。学生は1セメスターに18単位以上登録する為、4年間に144単位を越す結果が生じている。

今後ダンスはあらゆる芸術分野とかかわりを持ち日々斬新な作品が登場しているため、学生は時間割りが許される限りどん欲に受講し自分自身を高めている姿勢が見受けられた。

2) 年間公演スケジュール

年間公演スケジュールを大学の年間スケジュールより抜き出し表8に示した。年に2回計6日間大きな公演を上演する。「ダンスアンサンブル」の授業で振りつけられた作品を発表するのが主である。衣装も全て教師が用意し、劇場つきのプロスタッフが全てを取り仕切り、国立ダンサー並みの待遇で行なわれる。大学の斜め前に位置するメリリアンシアターでリハーサルを含め5日間貸切り、思う存分舞台上でリハーサルをすることが出来る。

各学年の創作発表会では自分達で自由に創作し、出演者についてはそれぞれが学生同志で交渉しあって成立する。衣装に関しては自分達で案を出し、衣装専門の教師に制作依頼する。

当日、学生が舞台監督や音響、照明等テクニカルアシスタントを担当しなければならない。又4年生はかならず1曲以上の創作を発表しなければならない。

当日、振り付け者は作品について各自のコメントが必要となり観客にスピーチを行う。1年生以外の学生

表8 年間公演スケジュール

月		公演予定	公演日数	劇場
1月	Spring Semester			
2月		4年生コンサート	2	小
3月		1年生コンサート	1	小
		3年生コンサート	2	
4月		4年生コンサート	2	小
	Fall Semester	Springコンサート	3	大
5月		1, 2, 3年生コンサート	1	大
6月				
7月				
8月				
9月				
10月				
11月		4年生コンサート	4	小
12月		Winterコンサート	3	大

は通算年間5、6回の舞台を経験できる。舞台から学ぶものは限りなくある為、学生にとって舞台体験が多ければ多い程実力となるというコンセプトから出来上がったスケジュールである。

3) Extension Class について

このクラスはダンス拡張部門として、生徒以外の若い人や外部の人々の為に作られたさまざまなプログラムを用意している。彼等の隠れている才能を探し励ます刺激的なものである。学生は、ダンスコース以外の学生であっても、単位として認められる。ダンスコースの学生は、もちろん自由に受講することが出来る。期限は1セメスターでくぎられており、Uartsの学生は単位希望者のみ受講料を支払う。すべてUartsで教鞭をとっている教師で成り立っている。科目として、バレエ1～4グレード、モダンダンス1～3グレード、ジャズダンス1～3グレード、スパニッシュ1～2グレード、タップダンス1～2グレード、ブラジリアンダンス1～2グレードとなっている。

全て行われる時間帯は、17:30～21:00頃までで大学内の空いたスタジオで行われる。科目内容はそのときどきに依じて変わる。表9は2000年のFallセメスターで行なわれた科目と登録者の人数であるが、実際的人数は登録なしでダンスコース生は受講できる為、表の人数には記されていないが、学生が常に数人加わり1クラス約20人程度で繰り広げられ活性化されている。特に初級クラスは外部の人々で盛り上がっている。これは、大学の位置する場所が好条件であるため、会社帰りのOLや、主婦、リタイアした老人が受講しているためである。中級クラスになると、大学のダンスコース以外の(演劇コース、ミュージカルコース、美術コース

表9 EXTENSION CLASS 種目別登録者数

科目	Uartsの学生人数	大学以外的人数
バレエ1	10	22
バレエ2	1	15
バレエ3	2	6
バレエ4	1	1
モダン1	19	7
モダン2	2	8
ジャズ1	16	16
ジャズ2	8	6
タップ1	21	12
タップ2	4	5
ブラジリアン1	13	4
ブラジリアン2	4	5
アフリカン	0	8
スパニッシュ	0	3

ス)などの学生が受講している。上級クラスでは、ダンスコース学生が補講感覚で受講している。

Extension Classでもバレエクラスが一番多く設けられており、クラス数のわりには登録人数が少ないが、ここでも受け入れクラスを多く設置しバレエの重要性を唱える大学側の方針が伺われる。1年生の必修科目であるバレエ、モダン、ジャズ、タップの初心クラスは(Section 1), おくれを取り戻すかのようにダンスコース1, 2年生の受講者が多数であった。よって大学では、いつも、9:00や22:00頃まで学生は踊り続けることが出来る。ほとんどのダンスコース学生は、月曜日から金曜日までは他の稽古場でトレーニングする必要がないほど大学に設けられたクラスで十分に実力を伸ばすことができる徹底したカリキュラムであると考えられる。

4) サマープログラム

夏休みの期間には2週間がひとつのプログラムとなるサマープログラムが2回7月中に設けられている。授業は学内教員であるがバレエ教師のみ、客員教師としてフェルナンド、プフォネスが招聘されている。彼は有名なバレエダンサーであったため、地域の州立バレエ団員までが参加するほどの反響でありバレエクラスが特に盛り上がりを見せていた。このクラスには一般の受講者で成り立っている、特に一般の受講者の中には、9月入学の学生が多数参加しており入学生に対しても著名な教師によるバレエクラスはバレエの必要性を示す為のある種のデモンストレーション的要素を感じさせられた。科目内容はExtension Classとほぼ同様である。又このプログラムでも希望者は単位を得ることが可能である。

3. バレエ授業視察と指導体験からの報告

1) バレエ教育の特徴

① 1, 2年生のクラスの特徴

1, 2年生のクラスの特徴を表10に示した。1年生ですでに必要なことは、身体の正しい位置を理解することとバレエの基本的なポジションと動きを体得することである。これを目的としプログラムが組まれている。1年生はレベルの相違が大幅にあるためSection 1から3では授業内容の差がきざらかとなっている。基礎固めが必要な1年生は各Section共に指導ペースがゆっくりであり項目を少なめにし、繰り返し学ばせることを心がけている。バーとセンターとの関連性を大切にしている。2年生になると学生のレベルの差が縮

まるため授業内容の変化は著しくない。しかし、Section 1とSection 2, 3では3年生からの専攻分けを意識してかセンターにおき特徴が異なるように見受けられる。2年生のSectionでもバーとセンターとの関連性を考慮している。

② バレエ専攻3, 4年生のバレエの特徴

3, 4年生のバレエの専攻でもバーで行ったパはかならずセンターにいかされるように組まれ、バーの意義を伝える。

3, 4年生のバーにおいては1・2年生Section 3と同レベルでありバーでは基礎の繰り返し、身体のチェックとしての役割であることが確認される。2年生Section 3よりセンターはさらに複雑となり次のパがわざと出にくいパで用意されてあったり、つなぎのパがなくダイレクトに片足で動くパであったり足の筋力、器用さが要求される動きが増える。内容はほぼプロが行うレッスンと同様である。ピルエットは3回以上が要求され、アチュチュトゥール、アラベスクトゥールも2回以上の回転が要求される。

③ ポイントクラスの特徴

ポイントクラスではI, II, IIIまで開講されているが、レベルによる授業内容の違いは、バーにおいてはみられない。共通してポイントワークはバーよりスタートし、ドゥミポアント、ポアントで足裏のストレッチから始まり片足でピケス立ち、両足立ち、支え足なしでの片足立ちの順でバーのプログラムが展開していく。バーの一連の動きで自分の意志のままにポイントが操作できるような訓練を組み込んで体得させる。

ポイントクラスのセンターでは、ポイントクラスI, IIでは短いコンビネーションや同じパの連続でポイントに慣れさせる。又、有名なバリエーションを1セメスターに2, 3曲の割合で体得させポーズの見せ方、特にパとパのつなぎ、観客の存在を念頭においた指示を与え、踊りを完成させる。

ポイントクラスIIIではバランシンスタイルの特徴であるダイナミックさと細かいパのコンビネーションテクニックを体得させていた。

④ パートナリングクラスの特徴

パートナリングは週1回開講であり、他の専攻学生も多く受講している。あらゆるダンスにおき男女で踊る場面がある為いつも基礎編の展開である。男女共基本が理解されていれば、先々難しい作品に向かうときでも踊りこなせるであろう。よって難しいパートナリングをこの授業でする必要はなしとの担当教師の説明

表10 1, 2年生のクラスの特徴

学年		1年	2年
Section			
1	バー	<ul style="list-style-type: none"> ・体の正しい位置を覚えさせる為、体の方向として斜めからの方向と正面からの方向の動きを交互に組み合わせる。 ・音楽の取りかたを定テンポにしバを正確に動くことに重点をおく。 ・バランスを全ての動きの後にいれ自分の中心を理解させる。 ・バランスのカウントは長く16カウントもさらにある。 ・ポジションからパに移る過程を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生Section2, 3のクラスとほぼ同じ展開。 ・アドバイスとしての留意点が細くなる。
	センター	<ul style="list-style-type: none"> ・必ずバーとの関連性を持たすバを構成する。 ・足運びの練習として同じバをはじめはゆっくりとしたテンポで動く、のちに同じバを早いテンポで行い動きの成り立ちを理解させる。 ・ポジションの確認は怠らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バーと同様で一年生Section2, 3と同じレベルではあるが、グランワルツでは多くのコンビネーションを取り入れる。Section1の学生はほぼ可能性としてバレエ専攻以外の専門となるため大きなパのコンビネーションを組み込む。
2	バー	<ul style="list-style-type: none"> ・無駄のない音の取り方で少し込み入ったコンビネーションをさせる。 ・アダジオにおいて足を同じ高さで8カウントづつ保つ持久力の訓練をさせる。 ・バーの外側と内側からの足のコンビネーションからバランス移動の瞬時を体得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バーに細かい連続のパが含まれる。 ・はじめから軸足がルルベで動く、又は途中よりルルベとなる。
	センター	<ul style="list-style-type: none"> ・キープ系を多く入れバーなしでの身体の内中心を意識しながら持久力と形の美しさを感じさせる。 ・方向の発展性。 ・ジャンプ系にコンビネーションを取り入れる。 ・4項目の動きを繰り返し学ぶことによって身体に覚え込ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センターにかける比重がやや長くなる。 ・アダジオ24カウントが常時となる。 ・ビルエットが頻繁になる。 ・必ずバーで行われた細かいバの発展性がセンターで行われる。
3	バー	<ul style="list-style-type: none"> ・手や顔の位置に意識をおかせる。 ・タンジュ、レガジェ系の項目が多く足裏の意識・強化を高めさせる。 ・Section1, 2に比べると全てのテンポがやや速めとなる。 ・コンビネーションが増え動きの後のバランスが片足系でとる難度の形が目につく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Section2と比べバーレッスンのレベルの違いは見られないが、学生の憶えが早い為か1回の説明でほとんどの学生が間違わずに動き授業のスピードが早くなる。
	センター	<ul style="list-style-type: none"> ・Section2の4項目に比べ6項目と増える。 ・アダジオのカウントが16カウントと短めになる。 ・グランジャンプは連続で同じバを行い各部分の身体的位置を動きのある中で理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・方向と空間使いを素早く体で示す動きが増える。 ・コンビネーションが複雑になっていく。 ・右側と左側を続けて動くように組まれており体力のコントロール配分を理解させる。

であった。授業は水曜日の夕方であり、学生達はすでに体が出来上がっている為1時間半ゆっくり時間をかけて学ぶことができる。スタートは男女交互に無理ない間隔で手をつなぎブリエ、ルルベをスローテンポで行う。ここで男女の自然体な間隔を確認しあうことは、スキンシップの始まりでもある。男子、女子共に組むことに慣れていないため、教師は常時それぞれにアドバイスを促す。立ち位置、サポートする手と足の位置、

距離間を保ちながらのタイミング、ふたりで踊る意識の訓練を中心に進められる。回転系は全て1回で身体の内中心部感覚を養う。

⑤ 男性クラスの特徴

バレエ特有である男性舞踊手の踊りを体得させるため、バレエ専攻の男子学生が受講する。このクラスはもちろん他専攻男子学生も受講可能である。

男性クラスの特徴としてバーレッスンはシンプルに

行うとの担当教師の説明であった。特に膝の屈伸運動が多く取り入れられているバが目立つ。これは男性独自の力強い躍動的なバをセンターで繰り広げるためである。学生の技能はさまざまであり男子学生は、女子学生に比べると少数である為ひとりひとりに手厚いアドバイスを与え、男子学生を大事に育てている印象であった。

2) 指導体験

Winter Performance に、著者もゲスト教師の作品として振り付けを行い指導し、2回公演を体験する機会を得た。

今回の作品は『桜の花』がテーマであり、日本人が桜を愛する想いを桜の花がつぼみを持ち散っていくまでの過程、桜の花の命を表現した内容であった。この作品はかつて本学の学生が卒業公演で上演している作品であり、日本人学生と U arts の学生との間に作品に対する理解のしかたや捉える方が違うのか、また、その結果として技術や表現に相違がみられるかが最大の関心事であった。

ダンサーの振り憶えの早さは著しく、ほぼ1回の指導で振りが体に入った。音楽がもたらすその情感ある曲に助けられ、作品の持つイメージを彼女らは、漠然と理解した様子であった。しかし、その後は振りの持つ深い解釈、繊細さ、しなやかさ、バとバとのつながりなどの明確さに欠け、注意を促した直後はそれらしくなるものの、すぐに体操的な踊りに戻ってしまうといった具合であった。日本の風土に根付く桜を生活習慣、文化の異なる学生にどのように伝え、彼女らがどのように解釈するかが課題となった。

日本のアマチュア舞台の場合、本番近くになればほぼ毎日練習をして本番に挑むのが常である。しかし、ここでは週2回の授業以外はなかなか練習をさせてもらえない状況であった。このためか舞台が近づく緊迫感がやや日本人学生より希薄に感じられた。これには教師の指導問題が関係しており舞台前に緊迫したムードを作り上げる私達日本人独特の特徴からきているものと思われた。

日本のこの状況を彼女らに説明すると、プロではないのだからある程度でできれば良く、満足も得られるという回答であった。舞台実習が理想的に繰り広げられるカリキュラムであるのに対し、この回答や対応にはいささか残念であり、もっと教師も学生も有意義に、意欲的に望むべきであり、恵まれた環境の中で残念であった。しかし、アマ・プロという以前に舞台の重さ

や舞台への思い、人にみせる意義に対する心構えが日本の能狂言、歌舞伎といった伝統芸能から伝承されている日本人と外国人との根本的な考え方の違いであると感じさせられた。本番時でも緊迫感は持たれず、お祭りの感覚が強すぎて自分達が楽しみ、ミセル（見せる、魅せる）工夫に欠ける面が気にはなったものの、彼等の持つ異常なエネルギー、体力は舞台の上で発揮されることにより、充分に観客に伝わりある意味パワフルな公演となり観客を盛り上げている様子には感心させられた。彼等がひとつひとつの舞台に対して更に誠実な気持ちを持てれば、素晴らしいダンサーになれるのではないかと痛感した。

英語で説明し、舞台にもっていくまでの過程、特に、場あたり照明や舞台監督への指示等がすべて初めての経験であった。ダンサーも観客も日本人とは考え方や捉える方などの違いが著しく、戸惑った場面は多々あった。しかし、総じて貴重な経験であった。

＜おわりに＞

アメリカの教育制度に日本でいう文部省という国家機関が存在しないため、日本と事情が異なり、カリキュラムの改善、拡張、人事等自由に各大学で独自性を出すことが出来る¹²⁾。よって U arts のダンスコースのカリキュラムは、専門に必要な要素を全て含む理想的な構造であり、全てのダンスの基本はクラシックバレエであるという理念がカリキュラムからダイレクトにうかがえた。

1、2年生ではバレエ中心の徹底した基礎作りで、3つのレベル別クラスによりきめ細かく指導が行なわれ、3、4年生で更に専門を深めるカリキュラムとなっている。バレエは全て必修として各学年に開設され、ダンスの本質をよく理解していることがカリキュラムをとおして確認出来る。拡張クラスとしての Extension Class、サマープログラムについても授業の補充としての役目を担い、又大学の示す特徴を崩さず実行されている。学生も毎日フル回転で1～4年生まで充実した大学生活を過ごしている。あらゆるジャンルのプロとなるためには先ず身体が動き、それに付随し知性、創作の形勢をしっかりと専念させるカリキュラムでなければならない。現在日本の高等教育には類のないコースであり今後日本において文部科学省の認可範囲内でこのようなコースが誕生していくと考えられる。

授業視察を総括すると、クラスごとのねらいや目的、学生の能力に似合うプログラムが組み込まれていることが明らかとなった。また、バレエクラスにおいてはバーとセンターとの関連性をかならず持たせていることが特徴的であった。クラスは細分化されており、各々のクラスで十分にきめ細かい指導がなされている為、そのクラスについていけずに遅れがみられる学生は皆無であることも印象的である。

日本人に比べ、アメリカの学生は身体特性が好条件の上、パの憶えがとても早い為、授業の進度のテンポが早くても、ほとんどの学生はバレエテクニックを修得しているように見受けられた。特にモダン専攻の学生の多くが、バレエクラスを受講している現状が特徴的であり、印象的であった。

本研究は、平成12年度二階堂学園在外派遣として行われたものである。

引用・参考文献

- 1) ダンスマガジン編集部, 1996年, 「ダンスハンドブック」, 新書館.
- 2) いとうせいこう, 押切伸一, 1994年, 「西麻布ダンス教室」, 白水社.
- 3) Janice barringer, Sarah Schlesinger, 1998年, 「The Pointe Book」, A Dance Horizons Book Princeton Book Company.
- 4) Joho White, 1996年, 「Teaching Classical Ballet」, University Press of Florida.
- 5) 刈谷剛彦, 1992年, 「アメリカの大学, ニッポンの大学」, 玉川大学出版部.
- 6) 片岡康子, 1991年, 「舞踊学講義」, 大修館, p112~115.
- 7) Mark W Jones, 1999年, 「Dancer's resource」, David Emblidge-Book producer.
- 8) 松本千代栄, 1982年, 「舞踊教育学科のめざすものー学科の設置の機にー」, 日本体育学会体育の科学社.
- 9) 里見悦郎, 2001年, 「原題アメリカクラシックバレエ教育史研究」, 比較舞踊学研究 7 巻 1 号, p43~56.
- 10) 志田真紀, 2000年, 「日本の大学におけるダンスカリキュラムに関する研究」, 筑波大学体育研究科研究論文集第22巻, p457~460.
- 11) The University of the Arts, 2000~2001年, 「Undergraduate and Graduate Course Catalog」.
- 12) 渡部哲光, 2000年, 「アメリカの大学事情」, 東海大学出版会.
- 13) 和光理奈, 2000年, 「アメリカ合衆国の大学における舞踊教育の研究」, 筑波大学体育研究科研究論文集第22巻, p469~472.

(平成13年 9 月21日 受付)
(平成13年11月26日 受理)